

厚田学園開校準備委員会 第11回会議【質疑要旨】

- ・日時 平成31年2月21日(木) 18:30～19:45
- ・会場 厚田保健センター 1階多目的ホール
- ・出席者 委員13名
 - ・保護者： 小笠原英史(厚田小PTA会長)、角田由希(望来小PTA会長)、早坂伊佐雄(厚田中PTA会長)、阿部 保(聚富小中PTA会長)
 - ・学校関係者： 石橋浩明(厚田小校長)、三浦崇史(厚田中校長)、青山 司(聚富小中校長)
 - ・学校支援推進員： 渡邊教円(厚田小)、渡部賢二(望来小)、小林晴美(厚田中)
 - ・厚田区地域協議会： 築田敏彦(厚田区地域協議会会長)
 - ・学識経験者： 佐藤勝彦(札幌大学名誉教授)〔委員長〕
前田賢次(北海道教育大学札幌校准教授・教育方法学)〔副委員長〕
- 教育課程部会 鬼塚建次(厚田小教頭)、徳田和之(聚富小教頭)、
(学校管理職) 野口俊之(厚田中教頭)、北村 剛(聚富中教頭)

事務局

〔市教委〕

佐々木生涯学習部長、佐藤教育指導担当次長、安崎総務企画課長、照山指導担当参事、相原厚田生涯学習課長、松永総務企画課主幹、古屋総務企画担当主査、西山厚田生涯学習課主査、石黒学校教育主事

※欠席1名(伊東優子委員・望来小校長)

※傍聴者無し

- 「委員長あいさつ」の後、事務局より「校章デザインの選考決定について」、次のとおり経過説明等を行った。
- 校章デザインの選考決定について(事務局：松永総務企画課主幹)
 - ・別添の校章デザインの応募一覧を事前送付させていただいた。前回の会議で確認した募集要項をもとに、昨年11月21日から市のホームページ、募集チラシの学校配布と市内全町内会への回覧、広報いしかり1月号、新聞及び全国販売の公募雑誌への記事掲載等の取り組みを行ったところ、全国から33名(個人)と1団体の応募があり、66作品が寄せられた。(その内、厚田中学校の文化部の生徒から6作品の応募あり。)
 - ・委員の皆さんには、公平性を期して、デザインそのものの評価をしていただけるように、選考に直

接影響を及ぼすような情報（住所や年齢、氏名等）は現段階ではお伝えしていない。今後の協議、選考審査の中で、個人情報の保護に抵触しない範囲で、委員の皆さんからの求めや判断に応じて、お伝えできる情報については対応したいと考えている。

・校章デザイン応募一覧の1ページ目の募集要項について、市のホームページと、市内に配布回覧した募集チラシにも同じ内容を掲載して周知を行ったが、新聞記事や広報いしかり1月号、公募雑誌には、紙面スペースの都合上、全ての内容は載せきれていなかったということをご承知おき願いたい。

・応募作品を見ると、手書きのデッサンで描かれている作品や、コンピューターグラフィックを駆使した精巧なデザインの作品が大変多く寄せられたが、前回の会議の質疑において、この開校準備委員会で選定した作品が、募集要項3の（7）及び（8）に該当するような状況（※著作権等に抵触、他の商標等の模倣をしている作品であることが判明し、異議申立てや苦情のほか、決定後に採用を取り消さなければならないような事態）にならないように、「事前にチェックすることはできないか」といったご意見をいただいた。その方法等について検討調査を行ったが、例えば様々なデザインの商標登録を検索できる、独立行政法人が開設しているインターネットの検索サイトでは公立学校の校章デザインの商標登録は確認できず、今回応募のあった各作品が酷似しているかなどの判別ができなく、応募作品との比較やチェックを行うには限界があったということについてご理解をいただきたい。

・この準備委員会で選定された作品が、後から取り消しとなるような事態にならないよう、その対応策として次の提案と報告をさせていただきたい。

一点目は、この後選定された作品の採用（応募）者に対し、明日、電話連絡をし、募集要項3の（7）～（9）について、本人への確認を行うこと。

二点目は、委員の皆さんが全66の作品の中で、「例えば一度見たことがあるような、既に使用されていると思われるデザイン」の作品がありましたら、選考リストから除くかどうかの判断を協議していただきたいこと。

三点目は、今回応募いただいた方の氏名をインターネットに入力検索したところ、既に全国の学校で校章デザインに採用されている方がいることがわかり、今回の応募作品とインターネット上で公表されている（既に採用されている）校章デザインとのチェックを可能な限り行ったこと。

・ただし、世の中に出回っている情報は毎日更新されており、申し上げたチェック作業や調査だけでは、「（8）・・・採用決定後であっても採用を取り消す場合があること。」を回避する確約はできないことから、当該条項（8）を盛り込んだところである。

そのようなことから、この後の選考の過程においては、最後は「上位の3作品から1つ、最上位を決める」とし、選定作品を公表した後に外部から類似等の指摘や申し出があった場合は、委員の皆さんにご連絡をし、あらためて協議させていただいた上で、「第2位の作品を校章デザインにする場合がある。」ということについてご理解をいただきたい。

・今後の手続き等としては、明日、まず最上位の応募者へ電話連絡をし、本人に（7）～（9）につ

いて確認了承が得られれば、来週中にも市のホームページで、作品と採用者の氏名、居住されている都道府県等を公表予定である。その後、3/6（水）の市議会建設文教常任委員会や3月の教育委員会会議において報告するといったスケジュールで取り進める。

⇒ 上記の説明について、質疑無し。

⇒ 佐藤委員長より、選定方法について

① 出席委員の投票（委員長を含めた14名）により選定すること。

② 投票の手順については、概ね4～5回の投票で1作品に絞り込むこと。

の提案があり、了承された。

⇒ 第1回投票を実施。各委員が10作品を上限として選考、投票した。

⇒ 第2回投票を実施。各委員が5作品を上限として選考、投票した。

⇒ 第3回投票を実施。各委員が3作品を上限として選考、投票した。

その結果、No.39、No.40、No.45、No.66 の上位4作品を選出した。

⇒ 第4回投票を実施。各委員が1作品を選考、投票した。

その結果、No.39 : 2票【第3位】

No.40 : 5票

No.45 : 5票

No.66 : 1票 となった。

⇒ 最上位（第1位）を決めるため、第5回投票（No.40かNo.45）を実施。

その結果、No.40 : 6票【第2位】

No.45 : 7票【最上位】 として決定した。

● その他

○ 教育課程部会からの報告〔厚田小・石橋校長〕

・第3回教育課程部会（2/18開催）において、前回以降の進捗状況と今後の見通し等について、各分科会からの報告を受けた後、検討協議を行った。その主な内容を一括して報告させていただく。

・移転・受入分科会・・・昨年8月に厚田中が厚田小内に移転（同居が始まって）から半年が経過。体育館等の使用に際し、物理的な課題（スペース不足）はあったが、望来小体育館や小中間の調整を経て使用するなどして乗り切っている。

昨年11月に臨時PTA総会を行い、2020年開校に向けて厚田小・厚田中のPTA組織改編を進めることとなり、H31年度より小中合同のPTA組織とすることになった。

現厚田小校舎から厚田学園（新校舎）への移転引越しに向けた条件整備について検討していくことを確認した。

- ・教育課程部会・・・授業日課や旅行的行事、各校の特色ある教育活動の再構築、教科担任制の一部導入等などの懸案事項を整理し、義務教育学校として認められている教育制度を活用しながら、教育課程の成案を作る作業を進めていく。
- ・地域連携部会・・・本年5/7に新年度第1回教育課程部会を開催し、全体会において「コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）」について外部講師を招聘した研修会を行う予定。具体的な活動を行っていく鍵となる地域コーディネーターの人材をどのように手立て、発掘していくかが今後の大きな課題である。
- ・閉校・開校準備部会・・・昨年11/18に望来小の閉校記念式典が挙行され、厚田小・厚田中・聚富小中にとっては、大変見本になる企画運営や準備が行われてきたものと評価している。今後、望来小PTA会長の角田委員からもノウハウ等をお聞きしながら、準備を進めていきたいと考えている。

⇒ 質疑無し。全委員、了承。

○ 校歌の決定に向けて〔松永総務企画課主幹〕

- ・次回会議（5月下旬の開催予定）において、校歌の決定方法等について協議させていただきたい。
現段階での事務局の腹案としては、作詞・作曲について、石狩市もしくは厚田区に縁があり、この地域の歴史や文化、風土など、厚田区に精通した学校教育関係者の方をお願いしたいと考えている。
次回会議の前に、委員の皆さんから、校歌の制作について率直なご意見があれば伺いたい。

⇒ 意見等無し。

⇒ （佐藤委員長）

もし、作詞・作曲の推薦依頼をされたい方がいる場合は、今月中に事務局まで連絡していただくようお願いする。

○ その他

（A委員）

昨年11月に行われた聚富小中の児童生徒の通学先意向調査の内容についてお聞かせいただきたい。

（事務局：安崎総務企画課長）

厚田学園への通学を希望しているのは小学生で2人、検討中が4人（小学生1人、中学生3人）という回答であったことを報告する。

⇒ （A委員、了承）

(B委員)

厚田小PTAの役員会で、開校後の通学路について、特に冬期間に低学年の児童が学校までの坂を歩いて上るのは厳しいのではないかという意見があり、検討してもらいたいという声があったことをお伝えする。

(事務局：安崎総務企画課長)

通学路については、昨年10月の子ども議会でも意見が出されており、今後、スクールバスの運行経路等を決めていくなかで、柔軟な対応ができるよう考えている。

⇒ (B委員、了承)

● 佐藤委員長より閉会挨拶

閉 会

会議録署名

上記会議の経過を記録し、その相違ないことを証するため、ここに署名します。

令和元年5月29日

厚田学園開校準備委員会

委員長 佐藤勝彦